# 故 岩上辰男先生のご逝去を悼む

昨年十月、私たち数学基礎講座で重要な会議があったとき、岩上先生は体調が思わしくないにもかかわらず出席されて、いつものように柔らかい口調でご自身の意見を述べておられました。その時、咳と痰とで大層苦しそうにされておられたのが、今では悲しく思い出されてきます。結局のところ、大学に来られたのはその日が最後となりました。

その次の日、近くの病院に行かれ、病状芳しからず広島赤十字・原爆病院にただちに入院されました。その三か月後いったん退院されましたので、早いうちに教鞭をとられるものと、皆、確信しておりましたが、五月二十日お亡くなりになられました。五十三歳の若さでありました。

岩上先生は、昭和四十四年十二月に東京教育大学より、総合科学部の前身である教養部へ講師として赴任され、昭和六十三年に総合科学部助教授に昇任されておられます。専門は「代数学」で、昭和六十三年に広島大学において理学博士の学位を取得されておられます。

私は、昭和五十四年三月に総合科学部に参りましたが、その当時から総合科学部は手狭で相部屋がいくつかあり、私は岩上先生の部屋へ同室させていただきました。岩上先生は、いつも、もの静かで勉強をよくされておられました。私からお茶のお誘いをしたり、たまに、将棋のお相手をお願いしておりました。こちらに移転するまではいろいろな方と同室をさせていただきましたが、移転後は、何か通り一辺倒な人間関係に終わってしまいそうで、岩上先生にはご迷惑であったかもしれませんが、同室をしていただいた方々が無性に懐かしく思い出されてきます。

岩上先生がお亡くなりになって、周りの方、一人ひとりの重みをつくづく感じざるを得ません。今となっては、ただただ、ご冥福をお祈りするばかりです。

（総合科学部数理情報科学コース　水田義弘（みずた・よしひろ））